

第十一回「前田純孝賞」学生短歌コンクール入賞作品一覧

【選者選考部】

前田純孝賞

(中高校生)の部

透明なコップの中の青い海へつと飲み干し弾くドレユッシー

(選) 評 連審員前の緊張した時間をみてこに作風化した。「よじっ」と海を飲み干すような思いで、ピアノにむかっただ

大阪府立夕陽丘高等学校

光井誠人

何げなく交す言葉が嬉しくてほほえみ返すひまわり畑

(選) 評 一面のひまわりの花の中の二つの笑顔 夏曇がひかり、夏の大陽がかがやく真昼 ひまわり畑が似合っ二人です。

兵庫県立八鹿高等学校

村上あかり

(大学生)の部

東京の顔めぎ娘にかえぬ日々をいつも母のいる場所

(選) 評 東京生活では 東京用の顔をかぶっているのだ。下句の表現が特によく 着地がぴったりと決まった、姿のいい一首である。

青山学院大学

小澤智美

準前田純孝賞

(中高校生)の部

引き潮を眺めているとどこつしてか嫌われている感じがしてくる

勉強中あなたのことを考えた今何している誰想ってる

荒れ狂う雪の海にも惹かれるが雪解け後の芽の海も良い

早く来て見つけて欲しい見て欲しい林檎になった私のことを

(大学生)の部

甘ったれた遺書は浜辺に置き去って地平線までカモメを飛ばせ

鈍色の海は冷たく張りつめて我を離さぬ冬の白曜

早稲田大学大学院

白辺いつみ

放送天学大学院

小村典央

新潟県長岡

(中高校生)の部

芝の海弓ひきしぼる友の顔火矢射る姿りりしくひかる

寂しげにささやく波の音聴けばまるで心が背伸びするよう

大空に紙飛行機を飛ばすようにあなたに思いを伝えられたら

私には思いつかべる海がないいつの日か海で泳いでみたい

何度でも振っていいから一度でも私を見てよホントの私

去ってゆく背中を見るのはつらいからせいでわかれた手を振りながら

荒れ狂う海をなだめるかのように空から白い雪が降りくる

亡き祖父の時計の蠟子巻く秋の夜音を生きた声を聞きたし

潮風を受けて前へと走り出す強くにぎったたすきを持って

こっそりと増やした空白メモリーは聞けない君のメールアドレス

(大学生)の部

七ヶ月ぶりと思えば柔らかな響きとなりぬ父へ「お帰り」

寒空の下に見つけた日は寂しさ溶かすあなたの笑顔

連絡道本州江ノ島その内の切り取られたる大洋哀し

気づかずに築いた絆キスをせり傷つかなくて傷しかなくて

同じ海それでもいつも違う海日々変化する人と同じだね

早稲田大学大学院

伊藤実希子

青山学院大学

千葉紘子

筑波大学

小川杏奈

静岡文化芸術大学

水野広太郎

同志社大学

藤谷美緒

新潟県教育委員

(中高校生)の部

そばにいるこの歌とごく場所にいるでも届かない私の心

桜色あなたの好きな桜色今は私の大好きな色

夏の日にかわした約束守るためゴール目指して私は泳ぐ

銀杏舞う夕暮れ時のこの道を寒いね寒いね言い合い帰る

波が来て裸足の足を包み込む私を全て濡かすように

君が言う言葉一つで浮き沈みあなたの海で泳ぐ私

青春の真つ口中の十八歳マークシートが虚しく見える

君が呼ぶ私の名前つれしくて自分の名前かわいく思う

おじいちゃん絶対どこにも行かないで私も一緒に頑張るから

思い出は君がいるから出来たもの何も告げずに遠ざかる背中

(大学生)の部

荒波へ風がいざなつ渡り鳥気高き翼しぶきで光る

いつの日か終わるかもしれぬこの恋に君も全力でぶつかってくれ

寄せて引く波のリズムは繰り返して生命の歌を紡ぎあるかな

すれ違つ列車待つ間に白波の立ちて日本海暗みゆくなり

夏の海無限の青を創り出す空の彼方と混ざることなく

大阪国際大学

井上泰明

青山学院大学

若林美幸

仏教大学

綿貫明日香

兵庫教育大学大学院

渋谷義人

東京農業大学

宮永幸則

神戸新聞社賞

(中高校生)の部

砂浜で感じる地球の静かな息打ち寄せる波と過ぎていく風

秋の道落ち葉踏みしめ歩くとさざっくと言がするその音が好き

「よめ」よも「あじがこ」をいふ言えぬまは過した日々よからうほの心

だあい好きーびっくりしてる君の顔本当は下キキ私の笑顔

見てほしい明るい君を追う私はまるで向日葵みたい

兵庫県立八鹿高等学校

早崎 諒

兵庫県立鈴蘭台西高等学校

藤盛曲希

兵庫県立鈴蘭台西高等学校

品田理江

長野県豊科高等学校

宮澤結花

自修館中等教育学校

細谷香枝里

聞こえてくる鳥のさえずり聞こえてくる実の落ちる音リスのおしゃべり
いさり火の小さな輝き消えてゆく水平線のはるか彼方へ
青空にぶかぶか浮ぶ白いふね心がまっしる気持ちいいよね
君と会い話して笑える幸せを表す言葉持っていない
舟のよう波にゆられる恋のころたどりつくのはあなたのころ

(大学生の部)

青い海すくえぬ蒼さよ遙かなるゆるくまあるい水平線
月こそは陽の光にて映えるなら私は貴女の月でありたい
撤退の汚泥の道に乱れ散る死人の数を群とは呼ばず
片恋はいつまでつづく秋冷にあつてせつないレゾンニートル
好きなんだドラマのように言えたなら心はどんなに晴れ晴れ天気

佳作

(中高校生の部)

想つ人あなたにだけはアマンジャク「あなたの事が嫌い」だと
ここにいる今過ごしているこの時間あの人待つため青春あくる
喜ひと幸せつもる恋心一億分の二人なのだから
夏の日に浜辺で拾った貝殻はともきれいで宝石のよう
柔道にすべてをかける僕たちはいつかなりたい世界の王者
騎馬の上に友達を乗せ突進す大きな力を両肩に受け
側についてつんと頷く横顔に話しかけるの君が大好きです
香水とたばことシャンブー入り混じり嫌いで好きな君だけの匂い
ぼるぼるになったアルバムめくるたび心に響く渚の音が
聞き慣れた自分の名前を聞いただけで口元ゆるむ園児が呼ぶから
テスト前になぜかメールをしてしまい直前になりあわてるあたし
「がんばって」応援してはいるけれど心の中では「無理しないで」と
白い息無邪気に笑つ横顔をすつと隣でみつめていたい
「何色が愛の色なの?」その色であなたにいつぱい手紙を書くの
春の日の夕暮れどきによみがえる言いたい気持ち言えない気持ち
トンカチの音が静かに鳴り響く父を思いつ夜に目覚める
メールでは君の言葉は届くけど君の心はわからないまま
リバウンドとりにくい君にみとれてディフェンスせずにおこられちゃった
暑い夏一人で歩いた海岸線なんだか悲しくなっちゃった
海猫を見るならやはりふるさとの無島あたりが一番だと思つ
冬の海波が来るたび考えるどこかに見えるほぐらの未来
海の上カヤックとめてふと気づく一人でここにいる寂しさを
潮風の匂いととも耳に届く昔のままの父の鳥唄
校庭を横切る風にさえずり伝えすにいた君への思い
広い海に私は一人残されてふと見上げれば笑つ空あり
ある山の小屋でねている少年は夢で泳ぐまだ見ぬ海で
金平糖(きんぺいとう)パステル色の粒々は君とあたしの思い出のよう
部活中の楽器をおろし外を見るオレンジ色が海に広がる
日本海浜から見える漁火は浮んだ町の電灯みたい
結論はまだ出さぬまま書きはじむ君への手紙風止みしの子

入選

(中高校生の部)

好きやけど伝えられないこの気持ち誰か私に勇気を下さい
なにげなくにぎるその手は温かくこの距離はもう忘れられない
公園でトコトコワゴン走り出す走つた後は可愛い寝顔
太陽が水面にダイヤ散りばめて私の朝に勇気をくれる
制服がほこりをかぶる夏休み夏の終わりを感してしまつ
「もつ飛べる?」「まだ飛べない」とおじけづくヒナの姿を見守る瞳
引き潮にびっくりしたから口開けた海を初めて見た時だった
あの海が空の青をつつすように私は何をうつしていいの?
鳴り響くザッパンザッパン海は鳴るもつともつと高く鳴り響く
漁船港白い海辺に止められた赤い自転車キラキラヒカル
ウミガメの母さんがなく砂浜を母なる海がやさしく包む
船に乗り七つの海をまたにかけ夢ではいつも航海中
アオリイカ一回釣つたらやめられない授業中にも心は海に
ヨイコラと船の上から呼ぶ声に心えるように立つ波しびき
透明で空の鏡になったとき歌を無くして色を得た海
寒い外もつた窓の向こう側小さい子供が遊んでいる
あの頃はただ父さんとか呼ぶなくてただけと今なら親父と呼べる
その声がずっと聞きたいもう君は電車の中で下を向いてた
怒つたり穏やかだったり海の波今日は少しつれしつ
あたためたコートに感じる母の愛自転車走らす朝もやの道
荒れる海力二をもとめて出航する父の姿に僕ははげむぞ
大変な夏の特訓身について私の夏の思い出となる
夕風に鳴き声止める海鳥よおまえも母の胸へと帰らつ
暖かい瀬戸内海の風を受け心も体も成長した十五年

奈良県奈良市立飛鳥中学校 井上春華
兵庫県香美町立香任第二中学校 山盛裕美
岡山朝鮮初中級学校 鞠千香
三田学園高等学校 大西隆史
近畿大学付属豊岡高等学校 宮本 遼

名古屋造形芸術大学短期大学部 石田 愛
信州大学 森下 孟
東京基督教大学 成沢未来
早稲田大学 石川大介
北星学園大学 山神優仁

兵庫県立和田山高等学校 和田茉莉
兵庫県香美町立射添中学校 水口真優
近畿大学付属豊岡高等学校 太田まき
宮城県名取市立みどり台中学校 竹中絵理
兵庫県社町立社中学校 酒井洗輝
兵庫県宝塚市立宝梅中学校 道岡利文
富山県立高岡南高等学校 森 雅湖
兵庫県立鈴蘭台西高等学校 竹村綾乃
山形県新庄市立新庄中学校 佐藤恵里香
兵庫県新温泉町立夢が丘中学校 坂本なつき
柳学園中学校 松崎由佳
岡山朝鮮初中級学校 崔 惠瑛
大阪教育大学付属平野中学校 田中真理菜
大阪教育大学付属平野中学校 越田 有
大阪教育大学付属平野中学校 長谷部慧
兵庫県新温泉町立夢が丘中学校 岸 洋志
学校法人成徳学園神戸龍台高等学校 植條妙子
大阪教育大学付属平野中学校 松本昂太郎
兵庫県立浜坂高等学校 前田一成
宮城県名取市立みどり台中学校 工藤領也
兵庫県立鈴蘭台西高等学校 原田 彩
兵庫県神戸市立神陵台中学校 垣内 彬
宮城県名取市立みどり台中学校 熊谷沙紀
兵庫県宝塚市立光力丘中学校 藪中 栞
兵庫県神戸市立神陵台中学校 長谷川美幸
大阪教育大学付属平野中学校 三木優樹
大阪教育大学付属平野中学校 早川真由
兵庫県新温泉町立浜坂中学校 谷口咲貴子
兵庫県立浜坂高等学校 池田真利
東京都立飛高等学校 岡本穂乃香

兵庫県立神崎高等学校 小林瑞穂
大阪府立夕陽丘高等学校 上野 彩
兵庫県立鈴蘭台西高等学校 齋藤 翠
柳学園中学校 山形美津希
柳学園中学校 徳梅奏子
兵庫県立和田山高等学校 岡田和子
宮城県名取市立みどり台中学校 小泉春奈
兵庫県立浜坂高等学校 宮本 舞
兵庫県新温泉町立浜坂中学校 片村光助
大阪教育大学付属平野中学校 小川朝子
大阪教育大学付属平野中学校 藤岡沙季
兵庫県新温泉町立浜坂中学校 勝山祥十子
大阪教育大学付属平野中学校 松岡浩永
大阪教育大学付属平野中学校 吉住友宏
古園晃栄
兵庫県立八鹿高等学校 畑山桃子
兵庫県立八鹿高等学校 吉井 奨
長治優依
長野県豊科高等学校 倉科あや美
京都府福知山成美高等学校 野島亜悠
兵庫県立浜坂高等学校 山崎翔己
兵庫県社町立社中学校 宮崎 梓
宮城県名取市立みどり台中学校 鶴野寿美子
兵庫県明石市立錦城中学校 米澤由佳子

雨の音一人の声を消してゆくそれでも伝わる互いの気持ち
秋日和雪の重さに耐えるよう慣れぬ手つきで縄を持つ父
海の先空の繋がり続いている波は両方旅をしている

通学路後ろ姿を探してた会っても話はできなかつたけれど
十秒間に一本シユート決まるはず時間よ止まれみんなで願おう
時動く空見上げればあの時の自分がそこで泣いている

ゆつくりと一人で歩く並木道がすかに触れる温もりある手
あなたへのいろんな想い重なって僕の心はバクダンみたい

波の上月の光がふわふわと夜明けの波にさらわれてゆく
夜の釣り釣竿がうちにぎりしめ投げ釣りしよう大物ねらって

気づくかな?「ママありがとう」と言った後「パパもありがとう」と小さくつけたす

テニス部で毎日ボールを追いかける先輩のように優勝するぞ
髪型が変わっていてもその時は照れて言えないカッコイイねと
おだやかにつぶやく波の声を聞くとれた心がほぐされていく
母の留守さみしい声でなく小犬遊んでやるからこつちにおいで
なびなびとせびせびせびせびとサザサザ首で浮かべる美しき蒼

長野県豊科高等学校

兵庫県香美町立射添中学校

兵庫県立浜坂高等学校

岡山朝鮮初級中学校

兵庫県香美町立射添中学校

兵庫県香美町立射添中学校

大阪教育大学付属平野中学校

兵庫県立神崎高等学校

大阪府立夕陽丘高等学校

兵庫県立八鹿高等学校

兵庫県社町立社中学校

学校法人成徳学園神戸龍谷高等学校

柳学園中学校

兵庫県立浜坂高等学校

大阪府立夕陽丘高等学校

庵谷真美

中村美希

西垣裕理

河村 希

田中友香理

岸 至昂

駒井宏美

藤原 聖

松島加奈

西岡涼三

村崎友紀

藤田早紀

土谷美郷

森 麻亜弥

木村明日香

岩永悠里

【学校表彰の部】

大阪教育大学付属平野中学校

兵庫県立浜坂高等学校

兵庫県立八鹿高等学校

【ネット投票の部】

ネット特別賞

(中高校生の部)

あなたへのいろんな想い重なって僕の心はバクダンみたい

兵庫県立神崎高等学校

藤原

聖

投票理由

恋をする心をバクダンに例えたところがいいと思った

導火線に火が点いちゃった「バクダン」。爆発した瞬間になるのが、十代という香ばやエネルギーを非常に感じさせてくれる。

若い素直なエネルギーが感じられ、ほほえましい。

今の僕の気持ちとまったく一緒。爆発しそつー!

バクダンという比喩が良いと思った。

(大学生の部)

いつの日が終わるかもしれないこの恋に君も全力でぶつかってくれ

青山学院大学

若林 美幸

投票理由

上の句では、恋戀における不安や切なさが表れており、それは対象的「下の句」では力強さを感じるため、いい短歌だと思いました。

二十歳前後の恋の切なさと熱意が伝わってくるかよ。「この頃の微妙な気持ちが出てくる」感じます。